

みつくら

令和 4年 4月15日 第360号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

大瀬川地区新小学一年生紹介

令和4年度入学ピカピカの一年生は次のとおり。
 まずは7区から、菅原万夢（まゆ）さん・未結（みゆ）さん（伸夫さん・野中）、8区は、辻村 藍（あい）さん（智さん・久助） 熊谷心々（ここ）さん（暁さん・田屋）、9区は、熊谷水希（みずき）くん（純さん・午房） 福島詩太（うた）くん（吉隆さん）の6名。おめでとございます。

子供会が一本化となってスタート

大瀬川地区子供育成会は、子供の減少により活動維持が難しくなったため、話し合いを重ねた結果、各区子供会活動を一本化し、名称を「大瀬川育成会」とすることを4月3日の総会で決定した。新年度からは、区毎に行なわれていた資源回収も育成会事業で取り組むこととなる。そのほか各区の要請には、地区役員の判断で対応することを決定している。

ここで、今年度の育成会児童数を学年ごとに記載する。
 一年生は7区・8区・9区とも2人ずつの6人で学年で一番多い。二年生は7区1人、8区1人、9区3人の5人。三年生は7区1人、8区2人の3人。四年生は8区2人のみ。五年生は7区1人、8区1人の2人。六年生は7区2人、8区2人の4人。全児童数22人、男女別では男子13人、女子は9人で世帯数は20戸となっている。改めて、子供の数が激減していることを痛感した。

報道によると平成14年からの調べで全国では毎年公立学校の廃校が500校にのぼるとのこと。石鳥谷地区において統合構想が話題になるのも当然である。

板垣さんが家族経営協定に調印

岩手日日新聞によると、去る2月28日に花巻地域農業情報センターで行われた家族経営協定合同調印式に板垣幸寿さんと娘の淑子さんが臨まれた。この日は、花巻市内から6組の農家が出席し、石鳥谷地区からは板垣さんの他に中村萬敬さんの2家族であった。協定書の内容は、収益金や給料を毎月口座に振り込む事や、1日の労働時間などが定められ、立

会人として花巻市農業委員会長と岩手中部農業改良普及センター長の2人であったと報じている。この協定を結ぶと、35歳以下の方なら毎月の農業者年金掛け金（2万円）が1万円、35歳以上は6千円の助成金が国から受けられる。

慰霊碑と駐車場を清掃

4月3日の早朝、大瀬川地区戦没者慰霊祭実行委員会（藤原利博実行委員長）は遺族の協力のもと総勢21名で清掃を行った。今年は少し雪も残っており、駐車場には落ち葉が張り付いて竹箒が活躍した。また、慰霊碑の周りも例年より落ち葉や杉の葉が多く今冬はとりわけ風が強かったことが窺われた。

最後に、慰霊碑の周囲にしめ縄を張り、10時から慰霊祭に備えた。この日は放射冷却で気温が氷点4℃まで下がり、マスクと防寒着で作業したため、誰が誰か分かりづらかった。

脈々と続く大瀬川地区戦没者慰霊祭

第126回大瀬川地区戦没者慰霊祭が4月3日、遺族と実行委員を合わせ18名が参加し、御所森の慰霊碑前で感染対策をして開催された。祭祀は熊野神社の菊池宏宮司が務め、厳かに執り行われた。日清戦争から第二次世界大戦にかけて大瀬川地区に家族や妻子を残し、凶らずも遠い戦地で戦死された54柱の名前が読み上げられた。続いて、藤原利博委員長と遺族代表の板垣邦博さんが玉串奉奠を行った。最後に、藤原委員長から「本日は朝早くから慰霊碑の周辺の清掃や慰霊祭に参列いただき誠にありがとうございます」と挨拶あった。

また、菊池宏宮司からも「こうして毎年地域の方々が尊い命を捧げた人を慰霊することは誠に大切だと思います。いま戦争をしている国もありますが早く終結して平和が訪れることを願います。今後もこの慰霊祭は続けて頂きたい」と話された。戦時中も中断することなく続く戦没者慰霊祭。コロナ禍で振興センターや改善センターが休館のため、雨天時にはテントの中で行う覚悟でいたが幸いにも好天に恵まれての開催となった。

人 事（敬称略）

- 区長 7区 畠山幸男（弥惣助）
- 8区 板垣博文（喜左衛門）
- 9区 畠山孝二（惣助カマド）
- 自治公民館
- 7区館長 菅原清孝（新） 副館長 畠山幸男（新）
菅原京子（新）
- 8区館長 菅原洋二（再） 副館長 畠山勝栄（新）
- 自主防災会
- 7区会長 畠山幸男（新） 副会長 菅原清孝（新）
菅原京子（新）
- 8区会長 菅原洋二（再） 副会長 板垣博文（新）
板垣由喜（新）
- 9区会長 畠山孝二（新） 副会長 熊谷武忠（再）
熊谷政子（新）

- 農家組合
- 7区組合長 菅原京子（新） 副組合長 佐藤 学（新）
- 8区組合長 板垣由喜（新） 副組合長 菅原昭悦（新）
- 9区組合長 熊谷政子（新） 副組合長 菅原章博（新）

大瀬川育成会

- 会 長 菅原一禎（7区）
- 副会長・会計 板垣勇司（8区）
- 事務局長 玉山 敦（8区）
- 監 事 西館 勝（7区）熊谷江梨子（9区）

訃 報

○の場家の畠山彌一さんは、3月6日に92歳で亡くなりました。畠山さんで思い出すのは杜氏さんとして長年活躍し貢献されたことでした。父親の彌蔵さんも大工の傍らに酒造工（麴師）として働かれたと昭和3年の松尾大神碑に刻ま

れていましたので、その影響もあったのかも知れません。畠山杜氏さんは、17歳で福島県須賀川市の須賀川酒類製造に酒屋働きたのが始まりで、その時の杜氏さんは野原家の熊谷勇一さんでした。誰もがそうであったように、新参としての「働き」（役が付かない職種）は蔵人の世話係で、杜氏さんの背中流しや、ご飯のよそいなど雑多な仕事が多かったものでした。そうした修業を重ねた結果、34歳で杜氏試験に合格し、実に59年間の南部杜氏でした。その間に鑑評会で優等賞を13回、名誉賞も2回、日本醸造協会会長表彰も受賞されていました。

地区においても、7区長や7区農家組合長、7区部落公民館副館長などでも御世話になりました。大瀬川の防災にも、町消防団第2分団第2部長として大瀬川に貢献されました畠山さんに謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

○新助家の菅原エトさんは、3月13日に87歳で亡くなりました。菅原さんは、ご主人の政三さんが左官職人であり、冬場は酒屋働きに出ていましたので、田んぼや畑仕事は菅原さんが主に担われ、家業に尽くされました。菅原さんが若かった頃は、現金収入などは山仕事か、大きな農家の手間取りくらいでした。当時は石鳥谷町の町有林があって、畠山市助（弥惣助家）さんと菅原伊惣治（堤田竜家）さんが監督で、大瀬川の方々が植林や刈り払いで毎日50～60人が手間取りをされましたが、菅原さんは欠かさず毎年働かれたのを思い出します。

また、ご主人の実家の板垣勘一（森子竜家）さんは、馬で山から木材を牽いた轆馬の職人でしたが、山に重機が入るようになってから、暗渠排水に使う「手柴」を採集して県内各地に納めた方でした。そのときに「採集」し「束ね」て、自動車まで「運ぶ」仕事をなされたのも菅原さんでした。生涯、懸命に働かれ、また地区でも7区農協婦人部長を担われるなどお世話になりました菅原さんに謹んでご冥福をお祈り申しあげます。